

多自然川づくり取り組み事例

タイトル：渚滑川のケショウヤナギ保全に向けた取り組みについて		
水系/河川名：渚滑川水系渚滑川	河川分類：大河川	
河川の流域面積：1240km ²	整備計画流量：1900m ³ /s	セグメント：2-1
事業：河川改修	事業開始年度：令和3年度	
目標設定：定性的	段階：D(実施・施工時)	
課題・目的(主な)：流下能力の確保、貴重種、特定動植物の保全		
工法(主な)：掘削(高水敷)、掘削(低水路)		
配慮事項(主な)：河川景観への配慮		

背景・課題、目標設定

<背景>

渚滑川の河川敷には、全国でもめずらしいケショウヤナギが生息しており、「北海道レッドデータブック」の希少種に指定されている。その植生は、レキ河原に生息する特徴から出水などの土砂堆積でレキ河原が減少すると通常ヤナギが優勢となり減少傾向にある。さらに、改修事業による河道掘削により、生息域が工事範囲にかかり、さらなる減少のおそれがある。

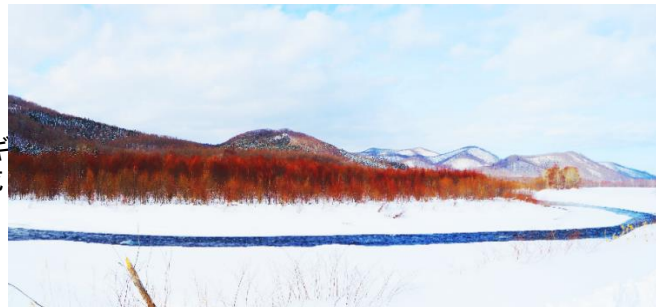
以上のことから、植生の特徴を生かした種の保存の検討と、施工の工夫により生息域の保全・検討の両方を行うことにより、希少種の保全を試みるものである。

<課題>

- ・減少傾向にあるケショウヤナギの保全
- ・自然環境の保全をしつつ、流下能力を満たす掘削方法の策定

<目標>

- ・持続的なケショウヤナギの生育環境の確保
- ・必要な流下能力を確保しつつ、ケショウヤナギの保全をはじめとした健全な自然環境の形成

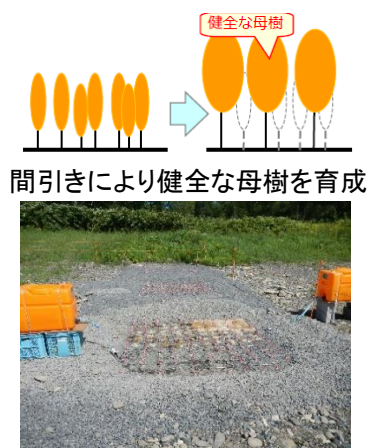


冬に色づくケショウヤナギ

取り組み内容・対策例(1/2)

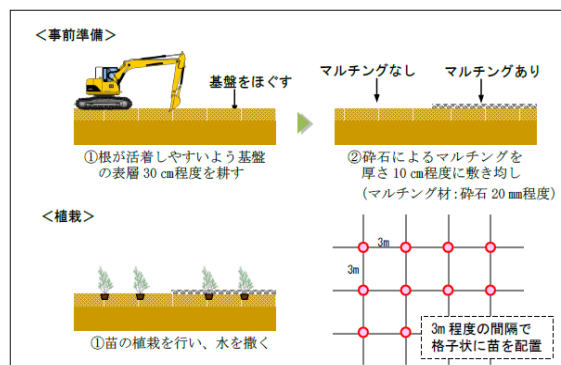
<既存母樹・幼木の保全>

ケショウヤナギは年々減少傾向となっており、希少種であることからその保全は重要である。したがって、間伐による強靱な母樹の育成、幼木の育成・確保の実施や、砕石によるマルチング有無の影響を明らかにする対照実験の実施等を行っている。それらのモニタリング結果を活用し、より最適な保全策を追求している。



間引きにより健全な母樹を育成

試験過程の様子



苗の導入試験

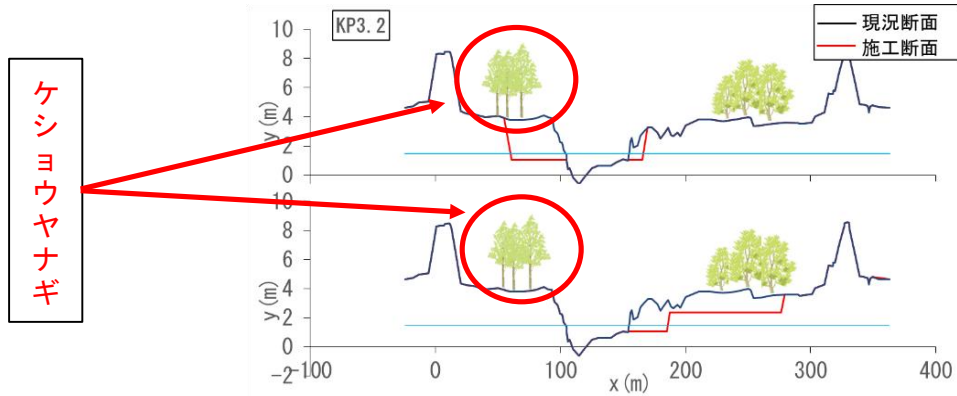
取り組み内容・対策例(2/2)

＜掘削方法の工夫＞

例としてKP3.2地点の河道掘削のケースをあげる。

河道掘削をする際には、通常であれば上段に示したように低水路のみの掘削を行う。

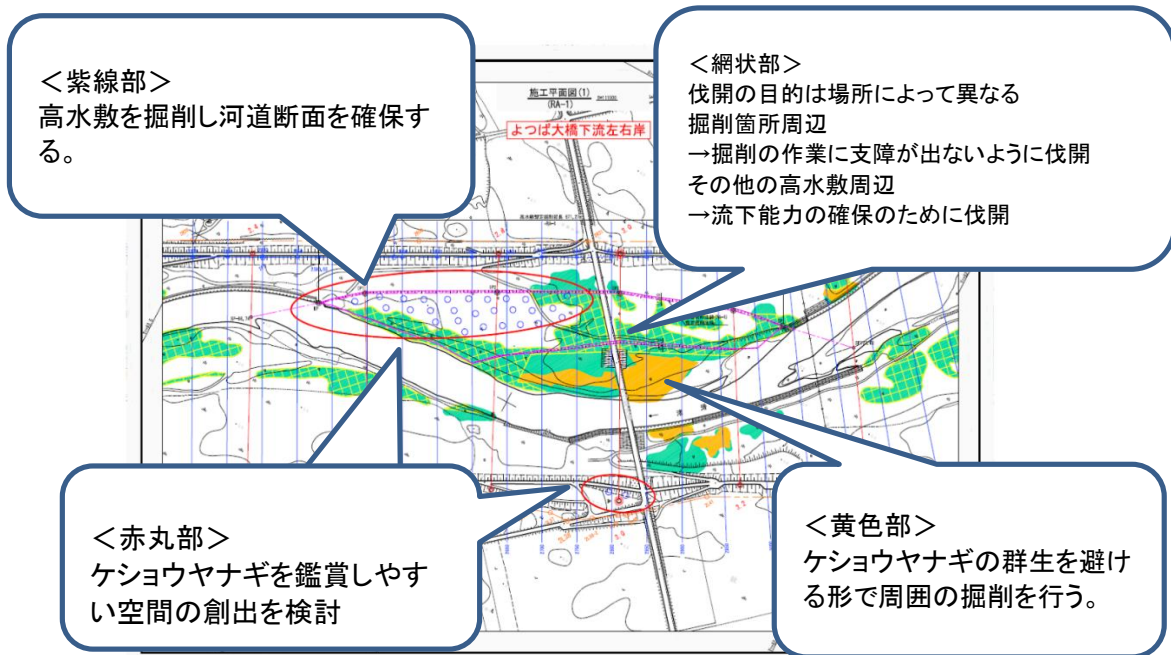
本ケースのようなケショウヤナギの群生が掘削予定箇所にある場合は、該当箇所の掘削を避けて下段に示してあるような低水路の掘削+高水敷の掘削を行うことで、不足分の流下能力を確保しながらケショウヤナギの群生を保全している。



モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

＜今後の対応＞

引き続き「渚滑川水系河川整備計画」に基づき、流下能力確保のための河道掘削を下流側から進めていきつつも、ケショウヤナギの群生の保全、生育環境の形成を行う。



備考